

溶連菌感染症

A群溶血性連鎖球菌(溶連菌)に感染しておこる病気です。のどに感染することが多く、幼児や小学生の年代に多く発症します。

以前は、溶連菌感染症は、熱と赤い発疹が出て伝染力が強い病気「しょうこう熱」とよばれていました。

潜伏期間は2～5日です。適切な抗生物質による治療が開始されて24時間以上が経過してから解熱していることを確認して、登園、登校が可能です。

主な症状と治療

発熱、のどの痛みがあり、のどは赤い点状の斑が見られます。また、からだや手足に赤くて細かいざらざらした発疹がみられることがあります。のどの痛みと共に、舌が白っぽくおおわれたようになり、その後赤いボツボツがみられる「いちご舌」という特徴的な症状が見られます。

これらの症状はそろってみられるものではなく、最近では、症状と周りの流行などから、早くに検査診断される場合が多いです。検査は、のどを綿棒でぬぐって行います。

診断がついたら、溶連菌に有効な抗生物質が7～10日程度処方されます。1～2日で熱が下がり、のどの痛みも軽くなります。症状がなくなっても、抗生物質は飲みきりましょう。菌がしっかり消えないと、心臓に炎症がでるリウマチ熱や、血尿・むくみなどがみられる急性腎炎をおこすことがあります。

薬を内服して2～3日たっても高熱が続く・のどの痛みがとれないときなどは受診しましょう。

抗生物質をのみおわってから、10日後くらいに尿検査を受けましょう

家庭で気をつけること

- ・兄弟に同じような症状があれば、受診してのどの検査をうけてください。
- ・熱いもの、酸っぱいもの、味が濃いものは、のどの痛みがおさまるまでさげましょう。
- ・入浴は、熱がなければかまいません。